



軽度発達障害児を持つ親を対象に開かれた「親支援プログラム」  
|| 長岡市の市社会福祉センター

## 軽度発達障害児

### 「要因と結果 考え接して」

長岡で講座

学習障害など軽度発達障害の子を持つ親を対象に、子供とどうかかわっていくかを講義と実践を交えて学ぶ「親支援プログラム」がこのほど、長岡市の市社会福祉センターで開かれた。

新潟大学教育人間科学部の長沢正樹助教授と軽度発達障害児者親の会「新潟いなほの会」が共催し、中越地区から十四人の保護者が参加した。

長沢助教授は「子供の行動には意味がある。行動

が起こった要因と結果を考えると問題行動は変わっていく」と、子供に関する具体的な分析方法を示しアドバイスした。

現職教員がアドバイザーになり、グループごとに分かれた保護者は自分の子供に照らし合わせながら、行動分析に取り組んだ。小学一年生の子を持つ長岡市の母親(三三)は「今までは問題行動ばかりに目がいていた。今回学んだ解決法などを生かして子どもを良い方向に導きたい」と話していた。